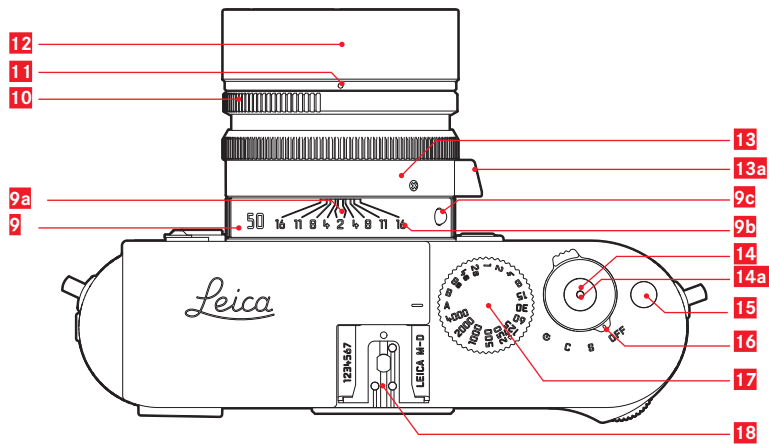
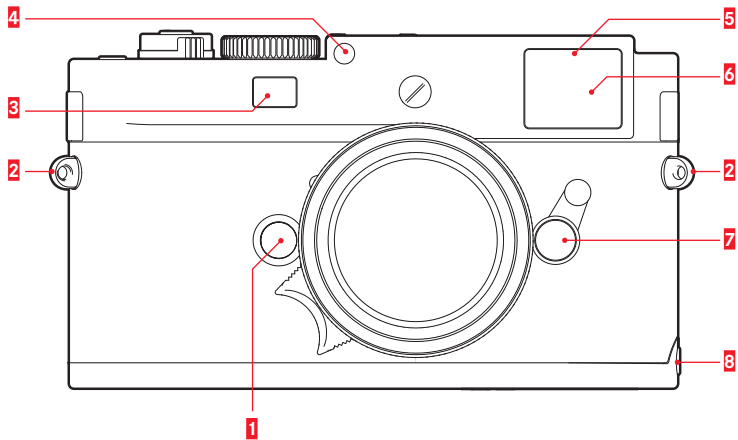
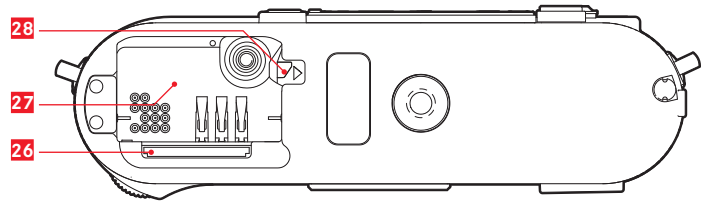
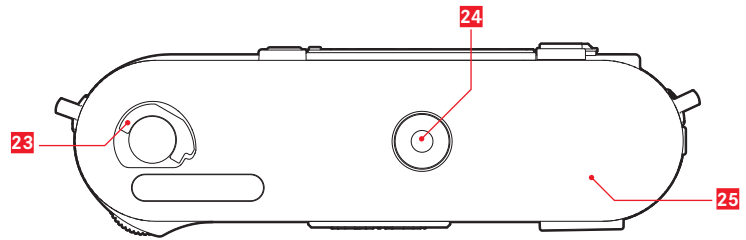
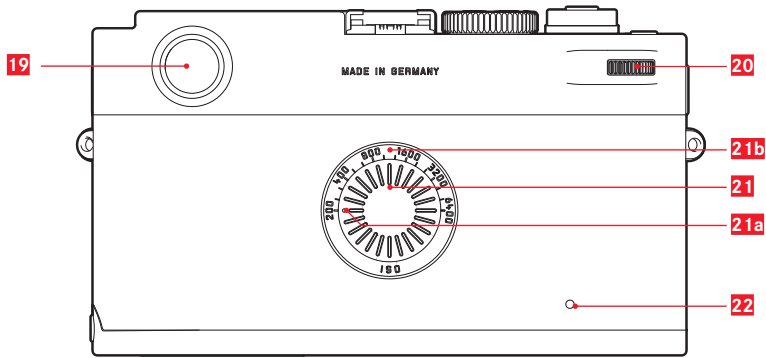




LEICA M-D

取扱説明書







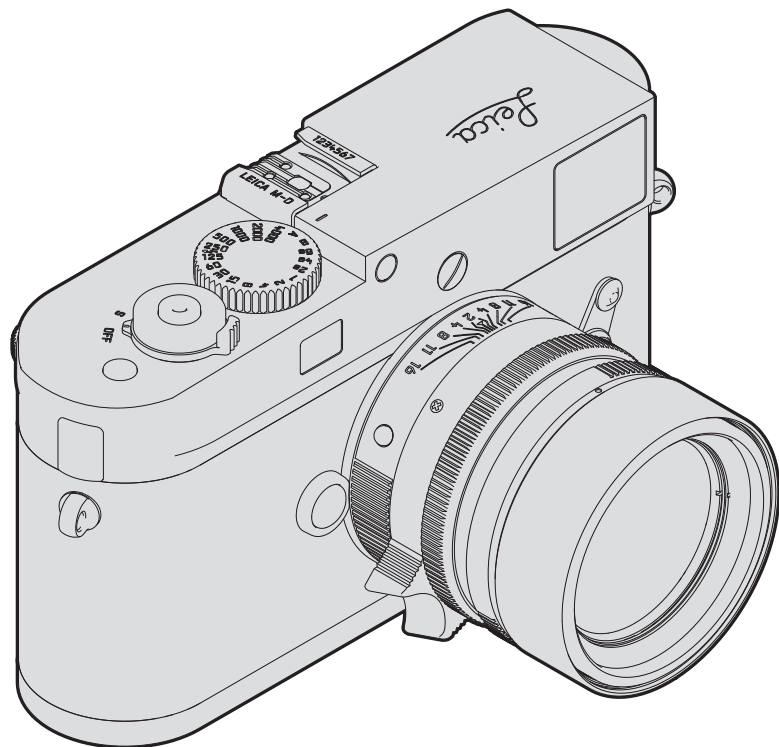
LEICA M-D
取扱説明書

はじめに

お客様へ

このたびはライカM-Dをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品は、独特の機能・性能を備えたデジタルレンジファインダーカメラです。

独特の機能と性能をご活用の上、末永くご愛用ください。
ご購入のカメラを正しく十分にご活用いただくため、ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みください。



目次

はじめに	2	基本的な機能	
ひ注意	6	カメラの電源を入れる / 切る	20
著作権と商標について	6	シャッターレリーズボタン	20
電気・電子機器の廃棄について	7	シャッタースピードダイヤル	21
各部の名称	8	カメラの基本設定	
操作ガイド（クイックスタート編）	10	日付と時刻	22
操作ガイド（準備・基本編）	10	ISO感度	23
使用前の準備		カメラ既定の設定	23
キャリングストラップの取り付けかた	10	ブライツフレームファインダー	24
バッテリーを充電する	11	フレームセクター	25
バッテリーとメモリーカードを入れる / 取り出す	14	ピントを合わせる	26
ライカMレンズ	17	露出計	28
レンズを取り付ける	19	露出計をオン/オフにする	28
レンズを取り外す	19	露出モード	29
		絞り優先AEモード	29
		AEロック	30
		露出補正	30
		マニュアル露出モード	30
		B設定	31
		光量が測光範囲外の場合	31
		フラッシュを使って撮影する	32

その他の機能・設定	トラブルシューティング	45
セルフタイマーを使って撮影する	資料	
画像をパソコンで見る	ビューファインダー内の表示	46
データをパソコンに取り込む	索引	48
DNG (RAW) データ		
ファームウェアをアップデートする		
システムアクセサリー	テクニカルデータ	50
スペア用アクセサリー		
使用上のご注意とお手入れ	ライカ デジタルサポートセンター	54
一般的なご注意	ライカ カスタマーケア	54
お手入れ方法		
撮像素子 (センサー) のクリーニング		
保管		

本製品に貼付されているCEマークは、EC指令に適合していることを示しています。

ご注意

- 現代の電子機器は、静電気放電の影響を受けやすくなっています。合成繊維のカーペットの上を歩くなどすると、人体に大量の静電気が帯電し、特に導電性のものの上にカメラが置かれていた場合はカメことで触れると静電気が放電されます。静電気が電子回路に侵入しなければ、不具合は生じません。また本製品は安全回路を装備していますが、安全上の理由から、端子部には手を触れないでください。アクセサリーを装着していない時はホットシューカバーを常に着けておいてください。
- 端子部をお手入れする際は、綿やリネンの布をお使いください。レンズ用のマイクロファイバークロス(合成繊維)は使用しないでください。お手入れの前には、接地された導電性のもの、(暖房器具のパイプや水道管)に触れて、静電気を放電してください。また、端子部の汚れやさびつきを防ぐために、レンズやボディキャップを取り付けて、乾いた場所で保管してください。
- 指定以外のアクセサリーは使用しないでください。故障、感電、ショートの原因となります。
- 本製品の部品を取り外さないでください。修理はライカカスタマーケアへご依頼ください。

著作権と商標について

- 撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 本製品に付属するすべてのソフトウェアの著作権その他一切の権利は、正当な権限を有する第三者に帰属します。
- SDロゴ、HDMIロゴは登録商標です。
- 本書に記載されているその他の名称、企業名、製品名は、当該各社の商標または登録商標です。



電気・電子機器の廃棄について

(EU諸国および分別廃棄を実施するその他のヨーロッパ諸国のみ)

この装置には電気・電子部品が含まれているため、一般家庭廃棄物として廃棄することはできません。お住まいの自治体のリサイクル用の廃棄物回収場所にお持ちください。回収は無料となっています。電池や充電電池を使用する装置を廃棄する場合は、電池や充電電池を取り外してから回収場所にお持ちください。

廃棄についての詳しい情報は、お住まいの自治体、お近くの廃棄物回収業者、またはご購入店にお問い合わせください。

本製品の製造日は、保証書または製品パッケージに貼付されています。表記法は以下の通りです。年/月/日

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。 VCCI-B

各部の名称

各部については、表紙と裏表紙の内側の写真を参照してください。

正面

- 1** レンズ取外しボタン
- 2** キャリングストラップ取り付け部
- 3** 距離計窓
- 4** 輝度センサー1
- 5** セルフタイマーLED
- 6** ファインダー窓
- 7** フレームセレクター
- 8** 底蓋固定ピン

本体上面

- 9** 固定リング (以下の3点が付属)
 - a. フォーカシング指標
 - b. 被写界深度目盛
 - c. レンズ着脱赤指標
- 10** 絞りリング
- 11** 絞り指標
- 12** レンズフード
- 13** フォーカスリング
 - a. 指当て付
- 14** シャッターリリースボタン
- 15** ファンクションボタン
- 16** メインスイッチ
 - OFF(カメラの電源をオフ)
 - S(1枚撮影)
 - C(連続撮影)
 - ☉(セルフタイマー、時刻、日付の設定
およびセンサーのクリーニング)
- 17** シャッタースピードダイヤル
 - A(シャッタースピード自動設定)
 - シャッタースピード $1/4000$ - 8秒 (1/2段ステップで設定可能)
 - B (バルブ撮影)
 - ☉フラッシュ同調速度 ($1/180$ 秒)
- 18** ホットシュー

1 ファインダーアタッチメント付きライカMレンズを装着した場合は、輝度センサーが遮られ、周囲の光量を測定できないため、ファインダーの明るさは自動調整されず、常に一定になります。使用できるレンズについては「表示部/ファインダー表示」(46ページ)、および「ライカMレンズ」(17ページ)をご覧ください。

本体背面

- 19 ファインダー
- 20 サムホイル
- 21 ISO感度設定ダイヤル
 - a. 指標
 - b. 目盛
- 22 LED - 画像データの読み込み/書き込み中に点灯します。

底面

(底蓋を取り付けた状態)

- 23 底蓋開閉つまみ
- 24 三脚用ねじ穴 A ¼ (¼インチ、DIN 4503に準拠)
- 25 底蓋

(底蓋を取り外した状態)

- 26 メモリーカードスロット
- 27 バッテリー収納部
- 28 バッテリーロックレバー

操作ガイド(クイックスタート編)

用意するもの

- カメラ本体
- バッテリー
- メモリーカード(別売)
- バッテリーチャージャーと電源コード

使用前の準備

1. バッテリーを充電します(11ページ)。
2. 充電したバッテリーをカメラに入れます(14ページ)。
3. メモリーカードをカメラに入れます(15ページ)。
4. カメラの電源をオンにします(20ページ)。
5. 日付と時刻を設定します(22ページ)。

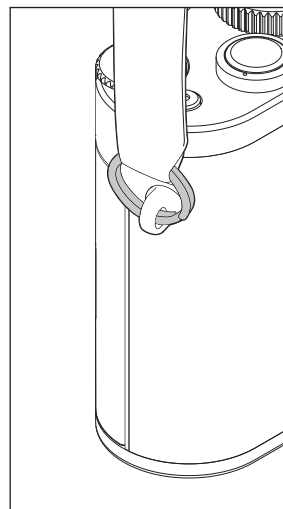
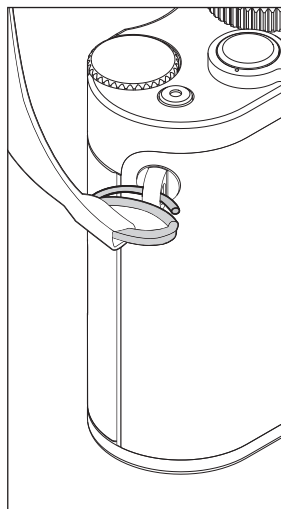
撮影する

6. レンズを取り付けます(19ページ)。
7. シャッタースピードダイヤルをAIにします(21ページ)。
8. ピントを合わせます(26ページ)。
9. 露出計をオンにします(28ページ)。
10. 必要に応じて、露出を調整します(31ページ)。
11. シャッターリリースボタンを全押しして撮影します(20ページ)。

操作ガイド(準備・基本編)

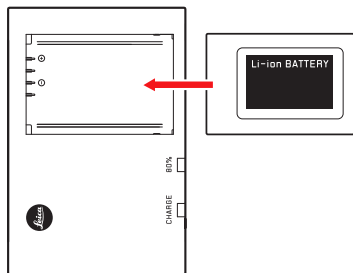
使用前の準備

キャリングストラップの取り付けかた



バッテリーを充電する

本製品をお使いになるには、充電式リチウムイオンバッテリーが必要です。



メモ

容量の**80%**を充電するのに要する時間は約2時間です。

充電が終わったら、過充電を防ぐために、バッテリーチャージャーはコンセントから抜いてください。過充電の恐れはありません。

- バッテリー充電中は、「CHARGE」のLEDが緑色に点滅します。容量の4/5まで充電が完了すると、「80%」のLEDが黄色に点灯します。フル充電が完了すると、「CHARGE」の緑色LEDが点滅から点灯に変わります。

ご注意

- 本書またはライカが指定したバッテリー（製品コード14 499）以外は使用しないでください。
 - 付属のバッテリーを本製品以外には使用しないでください。また、本書の説明に従って正しく充電してください。
 - 指定以外のバッテリーを使用したり、本書の説明に従わずにバッテリーを使用しないでください。破裂するおそれがあります。
 - バッテリーを直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に放置しないでください。また、電子レンジや高圧容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。
 - バッテリーには安全弁が付いています。誤った使い方により内部にガスが発生して内圧が上昇した場合は、安全弁によってガスが外部に放出されます。
 - 本書で指定したバッテリーチャージャー（製品コード 14 494）以外は使用しないでください。指定以外のバッテリーチャージャーを使用すると、バッテリーの故障の原因となり、また、死亡したり重傷を負ったりするおそれがあります。
- 付属のバッテリーチャージャーでは、専用バッテリー以外は充電しないでください。また、バッテリー充電器を他の用途に使用しないでください。
 - コンセントでバッテリーを充電しているときは、絶対にカーアダプターをバッテリーチャージャーに接続しないでください。
 - バッテリーチャージャーを使用するときは、コンセントの周りにほごりがたまっていないか確認してください。
 - バッテリーおよびバッテリーチャージャーを分解しないでください。修理はライカカスタマーケアへご依頼ください。
 - バッテリーチャージャーに付属の電源コードは、本機専用です。他の機種には使用しないで下さい。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないで下さい。

メモ

- バッテリーはお買い上げ時には充電されていませんので、充電してからお使いください。
- バッテリーは10～30°Cの場所で充電してください。これ以外の温度では、まったく充電できないか、もしくは一度充電中となっても再度充電できない状態となります。
- リチウムイオンバッテリーは、残量にかかわらずいつでも継ぎ足し充電ができます。残量が多い状態で充電すれば、短時間で充電が完了します。
- 充電中はバッテリーが温かくなりますが、これは異常ではありません。
- 充電開始後にバッテリーチャージャーの2つのLEDが速く(1秒に2回以上)点滅した場合は、充電異常です(最大充電回数を超えている、温度や電圧が動作範囲外である、ショートしているなど)。このような場合にはバッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーを取り外してください。その後、周囲の温度が上記に記載された範囲内であることを確認してから、再び充電してください。それでも状態が変わらない場合は、お買い上げの販売店またはライカカメラカスタマーケアまでお問い合わせください。
- 新しいバッテリーは、フル充電してから完全放電させる(本製品に入れて使い切る)というサイクルを最初に2、3回行うことで、性能を十分に発揮できるようになります。その後もこのサイクルを25回に1回ほど行うことをお勧めします。また、バッテリーを長持ちさせるために、夏季や冬季の自動車内など、極端に暑い場所や寒い場所に放置しないでください。
- バッテリーには寿命があります。最適な条件のもとで使用し続けても、数百回の充電を重ねると容量が低下し、使用時間が極端に短くなります。
- バッテリーは使用を重ねると性能が低下し、特に周囲の温度が低いと性能を十分に発揮できなくなります。長くても4年を目処に新しいバッテリーとの買い替えをおすすめします。
- 破損したバッテリーは、お住まいの自治体の条例や規則に従って廃棄してください。
- 本製品はバックアップ電池を内蔵しています。バックアップ電池は、日付と時刻の設定を最大2ヶ月間保存するためのものです。バッテリーを電源としています。バックアップ電池が放電してしまった場合は、バッテリーを入れて充電してください。充電を始めてから数日後にフル充電になります。充電中は本製品の電源を入れておく必要はありません。

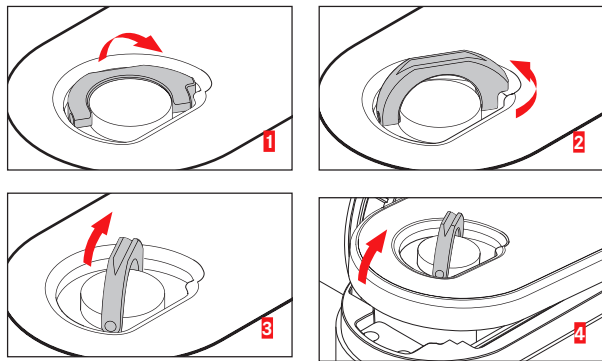
バッテリーとメモリーカードを入れる／取り出す

カメラの電源をオフにしてください。(20ページ)。

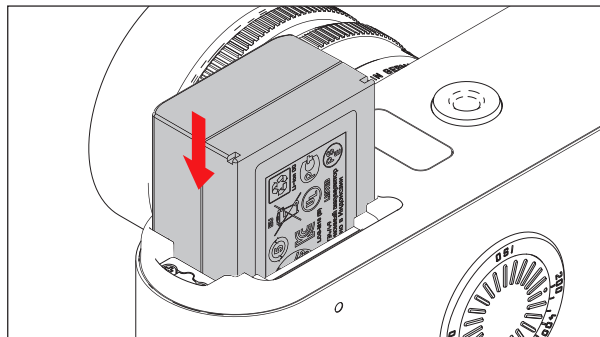
重要

本製品の背面下部にあるLEDが赤色に点滅している場合は、画像記録中またはデータ記録中ですので、底蓋を取り外したり、バッテリーやメモリーカードを取り出したりしないでください。保存されていないデータや保存済みのデータが消失することがあります。

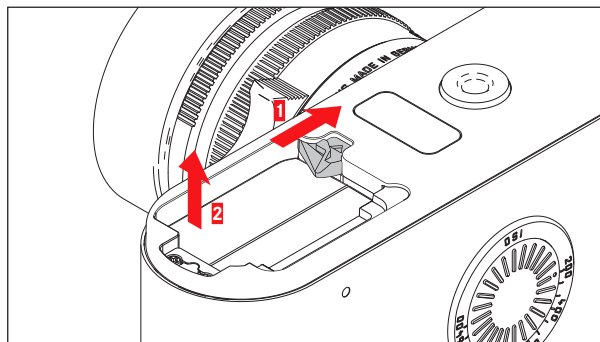
底蓋の取り外し方



バッテリーの入れ方



バッテリーの取り出し方



バッテリー残量表示

現在のバッテリー残量をビューファインダー内に表示することができます。

1. カメラの電源をオンにします。

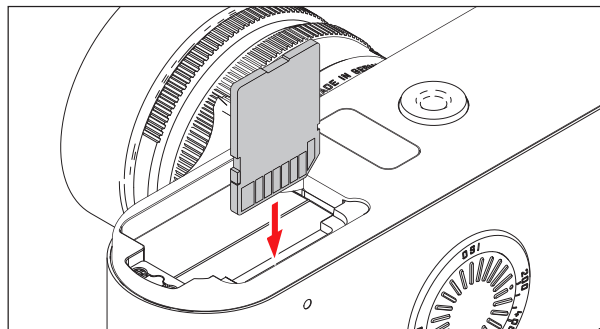
カメラの電源が入っているにもかかわらず、ビューファインダーに何も表示されていない場合は、以下の操作を行ってください。

2. シャッターリリースボタンを半押しします。
3. ファンクションボタンを2回押します。
 - 続けて押すと、現在のバッテリー残量とメモリーカード容量が交互にパーセントで表示されます。バッテリー残量の上には点が点灯し、メモリーカード容量とは容易に区別することができます。

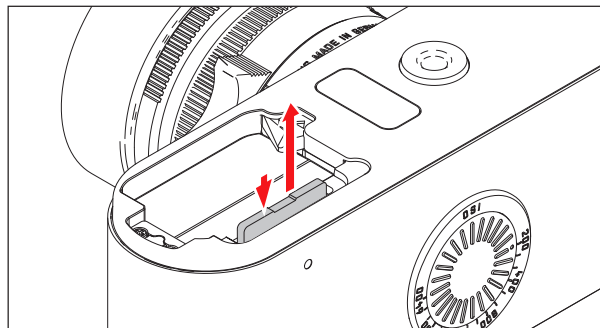
メモ

- ビューファインダーがあらかじめオンであったかどうかが残量表示に影響することはありません。
- カメラを長期間使用しない場合は、バッテリーを取り出しておいてください。
- バッテリー残量がない状態で約2ヶ月経過すると、日付と時刻の設定が失われますので再設定してください。

メモリーカードを入れる



メモリーカードの取り出す



使用可能なメモリーカード

本製品では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードが使用できます(本書では「メモリーカード」と表記しています)。

メモリーカードは、各メーカーからさまざまな容量・転送速度のカードが販売されています。容量が大きく転送速度が速いタイプのほうが、画像データの読み込み/書き込みを素早く行えます。メモリーカードは書き込み防止スイッチを装備しているので、誤って画像データを書き込んだり削除したりしてしまう心配がありません。このスイッチは、カード本体の角が斜めになっていない側にあり、「LOCK」の方向にスライドさせれば書き込み防止機能がオンになります。

メモ

メモリーカードの端子部には手を触れないでください。

メモリーカード容量表示

残りの撮影可能枚数をビューファインダー内に表示することができます。

1. カメラの電源をオンにします。
 - ・まずバッテリー残量が表示されます。
2. ファンクションボタンを1回押します。

カメラの電源が入っているにもかかわらず、ビューファインダーに何も表示されていない場合は、以下の操作を行ってください。

3. シャッターリリースボタンを半押しします。
4. ファンクションボタンを1回押します。
 - ・残りの撮影可能枚数が表示されます。ファンクションボタンを離す、もしくはシャッターリリースボタンを半押しした3秒後に通常画面に戻ります。ビューファインダーがあらかじめオンであったかどうかは関係なく、カードの最大容量は常に **Full** と表示されません。

メモ

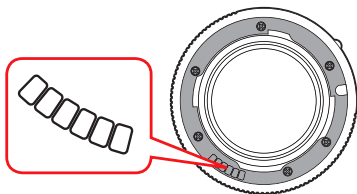
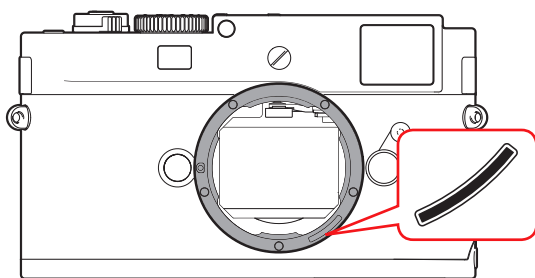
- ・メモリーカードは非常に多くのメーカーから販売されているため、すべてのメモリーカードの動作確認は行っていません。また、一部のノーブランドのメモリーカードは品質基準を満たしていないため、ライカカメラでは機能保証していません。
- ・メモリーカードがうまく入らない場合は、メモリーカードの向きが正しいか確認してください。
- ・電磁波、静電気、カメラ本体やメモリーカードの故障により、メモリーカードのデータが破損・消失することがあります。データをこまめにパソコンに取り込み(36ページ)、バックアップをとることをおすすめします。
- ・また、メモリーカードを帯電防止ケースなどで保管することもおすすめします。

ライカMレンズ

ほぼすべてのMレンズが使用できます。使用できないレンズについては、次の「重要」の項目をご覧ください。

レンズには、マウント部にレンズ検出用の6ビットコードが付いているMレンズと、6ビットコード付きではない旧型のレンズがありますが、本製品ではどちらも使用できます。6ビットコードが付いているMレンズは画像データを最適に処理することを可能にします。

6ビットコード付きではないMレンズでもほとんどの状況下では高い描写性能を発揮します。



重要

- 装着できないレンズ
 - ホロゴン f8/15mm
 - ズミクロン f2/50mm NF (近接撮影用レンズ)
 - エルマー f4/90mm (沈胴式、生産期間1954~1968年)
 - ズミルックス M f1.4/35mm (非球面レンズ不採用、生産期間1961~1995年、カナダ製)は、ごくまれに装着できないか、ピントリングが無限遠まで行き当たらないものがあります。そのような場合は、ライカカスタマーケアにお問合せ下さい。本製品で使用できるように有料で改造を行っております。
- 使用できるが、本製品またはレンズ自体が破損するおそれがあるレンズ

沈胴式レンズは、伸張させた状態でのみ使用できます。絶対に沈胴しないでください。ただし、現行のマクロ・エルマー M f4/90mmは沈胴させても問題なく使用できます。

使用できるが、機能に制限があるレンズ

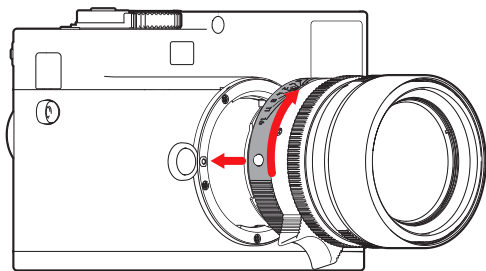
本製品の距離計は高精度ですが、135mmレンズを絞り開放で使用する場合は、被写界深度がきわめて浅くなるため、厳密にピントを合わせることはできません。絞りを2段以上絞ることをおすすめします。

- ・ 装着可能だが、露出計が使用できないレンズ
 - スーパー・アンギュロン M f4/21mm
 - スーパー・アンギュロン M f3.4/21mm
 - エルマリート M f2.8/28mm (シリアルナンバーが2 314 921以前のもの)

メモ

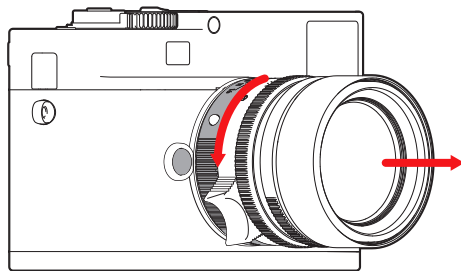
- ・ ライカ M レンズの多くは、ライカカスタマーケアにて、6ビットコード付きに改造できます。改造できるレンズの種類については、ライカカスタマーケアまでお問合せください。(連絡先は54ページ参照)
- ・ トリ・エルマー M f4/16-18-21mm ASPH.使用時は、焦点距離の情報を読み込めないため、撮影画像のExifファイルには記録されません。
- ・ トリ・エルマー M f4/28-35-50mm ASPH.使用時は、焦点距離の情報が読み込まれるため、対応するブライトフレームが正しく表示され、画像データの最適処理も行われます。これは以下の3種類全てのレンズに当てはまります。(製品コード11 625、11 890、11 894)

レンズを取り付ける



1. メインスイッチが「OFF」になっていることを確認します。
2. 固定リングに指をそえてレンズを持ちます。
3. レンズ着脱の指標(赤点)とカメラのレンズ着脱ボタンの位置を合わせます。
4. レンズをまっすぐはめ込みます。
5. カチッと音がするまでレンズを右に回します。

レンズを取り外す



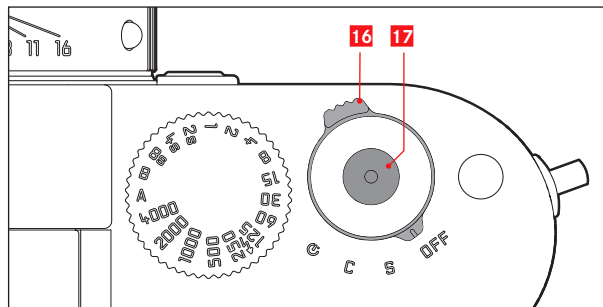
1. メインスイッチが「OFF」になっていることを確認します。
2. 固定リングに指をそえてレンズを持ちます。
3. レンズ着脱ボタンを押します。
4. 指標(赤点)とレンズ着脱ボタンの位置が合うまでレンズを左に回します。
5. レンズをまっすぐ取り外します。

メモ

- カメラ内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、カメラには常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所で素早く行ってください。
- ボディキャップやレンズキャップを衣類のポケットに入れたままにしないでください。ポケットに入れたままにしておくと、キャップにほこりが付着し、カメラやレンズに取り付けた際に内部にほこりが入り込むことがあります。

基本的な設定/操作

カメラの電源を入れる/切る



電源のオン/オフはメインスイッチで行います。メインスイッチはシャッターリリースボタンの下部にあります。機能ごとに次の4つの位置に設定できます。

a. **OFF** - カメラの電源をオフ

b. **S** - 1枚撮影

シャッターリリースボタンを押すたびに1枚ずつ撮影します。シャッターリリースボタンを押し続けても1枚しか撮影されません。静かに少ない振動でシャッターを切ることができるのが特徴です。

c. **C** - 連続撮影

シャッターリリースボタンを押し続けて連続撮影できます。連続して撮影できる枚数は、メモリーカードとバッファメモリーの容量によって異なります。少なくとも最初の8枚までは高速で連続撮影されますが、バッファメモリー容量がいっぱいになるとそれ以降は速度が低下します。

d. **M** - セルフタイマー

シャッターリリースボタンを押すとセルフタイマーが開始し、12秒が経過すると撮影が行われます。(36ページ)

メモ

- 電源を入れてから約1秒後にカメラが使用できる状態になります。
- 長期間使用しない場合や、ケースなどに収納して保管する場合は、メインスイッチを「OFF」にしてカメラの電源を切ってください。ファインダーの表示が自動的に消灯している状態や、オートパワーオフが作動してスタンバイモードの状態であっても、カメラは電力を消費しています。電源を切ることで誤って撮影されてしまうことも防ぐことができます。

シャッターリリースボタン

シャッターリリースボタンの作動ポイントは2段階です。

1. 半押しする(最初の作動ポイントまで軽く押す)

- 露出計がオンになり、ファインダーの表示が点灯します。

- 絞り優先AEモード時に露出値(カメラが自動設定したシャッタースピード)を固定します(「AEロック」30ページ)。

シャッターリリースボタンを半押ししたままにすると、ビューファインダーはそのまま表示を続けます。オートパワーオフによるスタンバイモードの際に半押しすると、スタンバイモードが解除され、表示が点灯します。

シャッターリリースボタンから指を離しても、露出計とファインダー表示はその後約30秒間作動します(「露出計」28ページ)。

メモ

次のいずれかの場合、シャッターリリースボタンがロックされ撮影できなくなります。

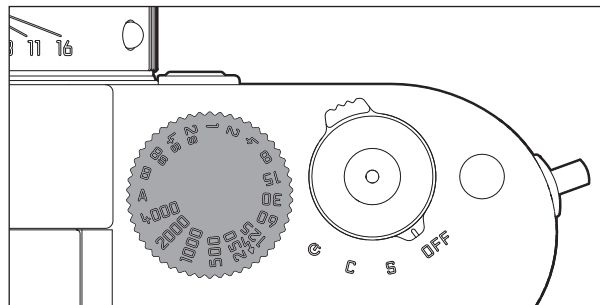
- バッファメモリーが(一時的に)いっぱいの時(16枚以上の連続撮影後など)
- メモリーカード容量がいっぱいで、バッファメモリーも(一時的に)いっぱいの時
- 使用中のメモリーカードの書き込み防止機能がオンになっている時
- メモリーカードに記録された画像番号が最大に達している時(このような場合にはデータのバックアップをとった後パソコンにてフォーマットしてください)
- バッテリーが使用できなくなった時(残量がなくなる、動作温度範囲外にある、寿命に達するなど)
- 底蓋がしっかりと閉まっていない時

2. 全押しする(深く押し込む) 撮影します。画像はメモリーカードに記録されます。

メモ

カメラブレを防ぐために、シャッターリリースボタンはいきなり強く押さず、そっと押し込んでください。

シャッタースピードダイヤル



シャッタースピードダイヤルは、シャッタースピードを設定する時や、露出モードを選ぶ時に使います。

- **A**: 絞り優先AEモード(29ページ)で撮影する時に選びます。
- シャッタースピードの数値: マニュアル露出モードで撮影する時に選びます。1/4000 ~ 8 秒の範囲(1/2段ステップ)で設定できます。
- **⚡**: フラッシュ同調速度(35ページ)です。1/180秒です。
- **B**: バルブ撮影(31ページ)する時に選びます。

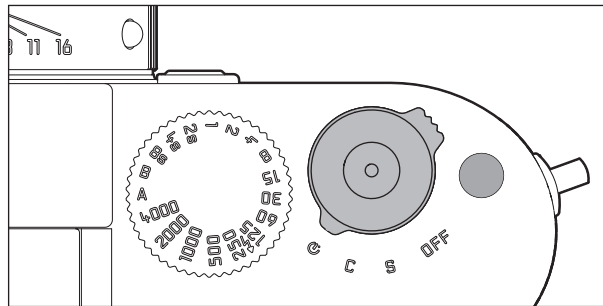
本製品のシャッタースピードダイヤルは、一定の位置でそれ以上回せなくなる構造ではありません。どの位置からでもどの方向にも自由に回すことができます。それぞれの数値とその中間(クリックストップで止まる位置)に設定できます。それ以外の位置には設定できません。

露出設定についての詳細は、「露出計をオン/オフにする」(28ページ)をご覧ください。


カメラの基本設定

日付と時刻

設定そのものはファンクションボタンとサムホイールとビューファインダー画面を使用していきます。



設定画面を表示する

1. メインスイッチを「」にします。
2. ファンクションボタンを長押し(12秒以上)します。(その際、ほかの動作はできません)

日付と時刻を設定する

3. サムホイールを使用してそれぞれの値を設定してください。


設定項目の移動方法

4. ファンクションボタンを短く押します。

項目の並び順は以下の通りです。

年を設定	
月を設定	
日を設定	
時を設定	
分を設定	

設定画面を終了する

1. ファンクションボタンを長押し(12秒以上)、もしくはメインスイッチをから外す、もしくはシャッターリリースボタンを軽く押します。
設定内容は保存されます。

ISO感度

ISO感度をISO200～6400の範囲で $\frac{1}{3}$ 段ステップで設定できます。そのため、状況に応じてシャッタースピードや絞り値を必要な値に設定することができます。カメラ背面にあるISO感度設定ダイヤルはそのために使用します。指標が合わせたい値の向かい側にくるように回してください。

メモ

ISO感度を高くするほど、画像にノイズや横縞や縦縞が生じやすくなります。

カメラ既定の設定

記録形式：画像データはDNG (RAW) 形式、圧縮あり(ロスレス圧縮)で保存されます。ホワイトバランス：自動的に調整されます。

ブライトフレームファインダー

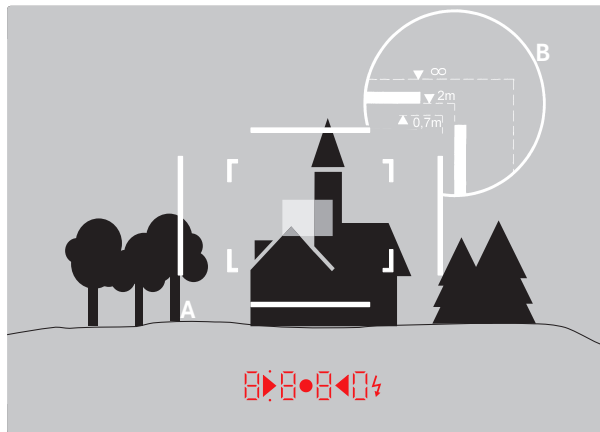
本製品のブライトフレームファインダーは、明るく鮮やかな表示の高性能な大型ファインダーで、レンズに合わせて高精度の距離計が機能する距離計連動式です。ファインダー倍率は0.68倍です。ブライトフレームのLEDは白く光ります。

ブライトフレームはフォーカシング機構と連動しており、パララックス（レンズとファインダーの光軸のズレ）は自動的に補正されます。撮影距離が2mより短くなると、撮影される範囲はブライトフレームの内側の辺で示される範囲よりもわずかに狭くなります。撮影距離が2mより長くなると、ブライトフレームの外側の辺で示される範囲よりもわずかに広がります（次ページのグラフィックを参照）。これらのわずかな差異は、レンジファインダーシステムの原理上生じるものですが、実用的にはほぼ問題ありません。

レンジファインダーカメラでは、使用レンズの画角に合ったブライトフレームを表示する必要があります。しかし、ピント合わせに応じてレンズの繰り出し量（光学系と撮像面との距離）が変わることで、レンズの画角もわずかに変わります。撮影距離が近い（レンズの繰り出し量が大きい）ときは画角が小さくなり、実際に撮影される範囲も狭くなります。また、焦点距離が長いレンズほど繰り出し量が大きくなるため、画角の変化も大きくなります。

ファインダーの中心には、ピント合わせ用の四角い測距枠が周辺よりも明るく表示されます。

露出計がオンになると、ファインダーの下部に露出状況を示すLEDやフラッシュマークのLEDが点灯します。測距枠や露出計およびフラッシュユニットの詳細については26、28、32ページの各章を参照してください。



ブライトフレームの表示範囲と撮影範囲 (50mmレンズ使用時)

A	ブライトフレーム
B	撮影範囲 (拡大図)
0.7m	ブライトフレームの幅で約1つ分狭い範囲
2m	ブライトフレームの内側の辺で示される範囲
無限遠	ブライトフレームの幅で縦に約1つ分、横に約4つ分広い範囲

フレームセクター

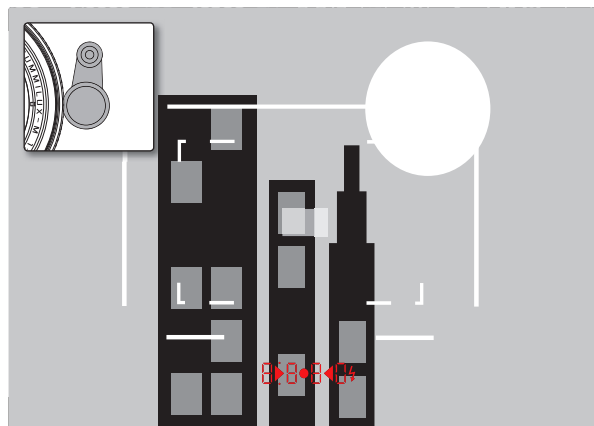
フレームセクターを使うと、使用レンズ以外のブライトフレームの組でも自由に表現することができます。ブライトフレームを切り換えることで、使用レンズの構図(撮影範囲)とその他の焦点距離のレンズの構図を簡単に比較できるので便利です。

フレームセクターを外側(レンズの反対方向)にセットすると、35mmと135mm用のブライトフレームが表示されます。垂直の位置にセットすると、50mmと75mm用のブライトフレームが表示されます。内側(レンズに近い方向)にセットすると、28mmと90mm用のブライトフレームが表示されます。

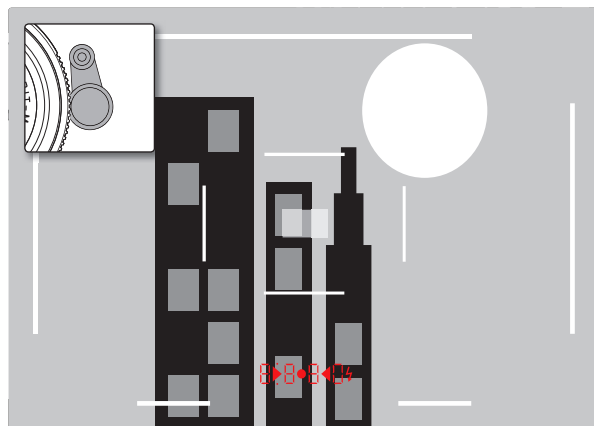
35mm + 135mm



50mm + 75mm



28mm + 90mm



ピントを合わせる

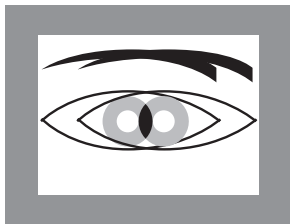
本製品の距離計は有効基線長が長いいため、高精度にピントを合わせることができます。特に広角レンズを使って深めの被写界深度で撮影する場合に効果的です。

メカニカル基線長 (ファインダー窓の光軸と距離計窓間の距離)	×ファインダー 倍率	有効 基線長
69.25 mm	0.68倍	=約47.1mm

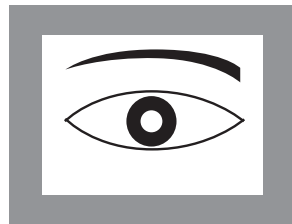
ファインダーの中央には、フォーカシング測距枠が明るくはっきりとした長方形で表示されます。ピント合わせは、このフォーカシング測距枠を用いて、二重像合致式またはスプリットイメージ式で行います。

二重像合致式

例えばポートレート撮影では、被写体の目にフォーカシング測距枠を合わせ、目の輪郭が重なるまでフォーカスリングを回します。重なったら構図を決めてください。



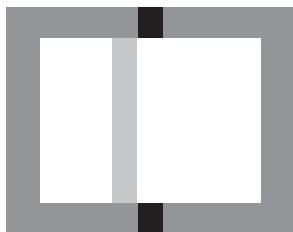
ピントが外れている



ピントが合っている

スプリットイメージ式

建築撮影などでは、建物の縁などの垂直な線にフォーカシング測距枠を合わせ、枠内と枠外の境界線で線が一直線になるまでフォーカシングを回します。重なったら構図を決めてください。



ピントが外れている



ピントが合っている

露出計

このカメラではレンズを通した中央に重点を置いた定常光の測光を行います。この方式ではシャッターブレードに反射された先幕の光が測定されます。適正露出のために適切な時間と絞り値の組み合わせがファインダー内に表示されますので、それを参考に組み合わせを決定します。

絞り優先AEモードではマニュアルで設定した絞り値に対しカメラが自動計算したシャッタースピードが選択されます。このモードではデジタルLED表示が選択されたシャッタースピードを知らせます。(例: 1000)

マニュアル設定では両方の値が露出調整のために3つの赤色LEDで構成されている露出レベル(▶●◀)に適用されます。設定が適切であれば中央の円形のLEDのみが点灯します。

露出計をオン/オフにする

露出計をオンにするには、メインスイッチで本製品の電源を入れ、シャッタースピードダイヤルを「B」以外にしてから、シャッターリリースボタンを半押しします。

- 絞り優先AEモード: ファインダーに自動設定されたシャッタースピードがデジタルLEDで表示されます。
- マニュアル露出モード: ファインダーの三角形のLEDのどちらかが、単独で、または円のLEDとともに点灯します。

シャッターを切らずにシャッターリリースボタンから指を離すと、約12秒間は露出計が作動し続け、LEDも表示され続けます。シャッタースピードダイヤルをBにしたときは、露出計は作動しません。

メモ

- LED表示が消えている場合、カメラがスタンバイ状態になっています。
- 露出計の測光限界値に近い僅かな定常光の下ではLEDが点灯するまでに約0.2秒かかる場合があります。
- 絞り優先AEモード時に、設定できるシャッタースピードの範囲では適正露出が得られない場合は、ビューファインダーのシャッタースピード表示が点滅して警告します。詳しくは「絞り優先AEモード」(29ページ)をご覧ください。
- マニュアル露出モード時に、周囲の光量が極端に少なく露出計の測光範囲を下回る場合は、ビューファインダー左の三角形のLEDが点滅して警告します。絞り優先AEモードでは、ビューファインダーにシャッタースピードが表示されたままになります。必要なシャッタースピードが最長シャッタースピード(ISO感度によるが最大60秒)を上回る場合には、ビューファインダーの表示が点滅に変わります。
- 長期間使用しない場合や、ケースなどに収納して保管する場合は、メインスイッチを「OFF」にしてカメラの電源を切ってください。ファインダーの表示が自動的に消灯している状態や、オートパワーオフが作動してスタンバイモードの状態であっても、カメラは電力を消費しています。電源を切ることで誤って撮影されてしまうことも防ぐことができます。適正露出を得るために自動設定されたシャッタースピードや、自分で設定した露出と適正露出との差は、ファインダーの表示で確認できます。詳しくは、「露出モード」(次ページ)をご覧ください。

露出モード

本製品では、次の2種類から露出モードを選べます。絞り優先AEモードとマニュアル露出モードがありますので、被写体、撮影状況、好みなどに応じて選んでください。

- 絞り優先AEモード: 手動で設定した絞り値に応じて、適正露出になるようにカメラがシャッタースピードを自動的に設定します。
- マニュアル露出モード: シャッタースピードと絞り値を自分で決めます。

絞り優先AEモード

シャッタースピードダイヤルをAIにすると、絞り値を任意に設定して撮影できます。シャッタースピードは、絞り値、露出計による測光結果、ISO感度設定に基づき、適正露出になるよう $1/4000$ ~60秒の範囲で無段階に自動設定されます。自動設定されたシャッタースピードは、1/2段ステップで表示されます。

シャッタースピードが2秒より遅く設定されたときは、シャッターを切った後に残り時間が1秒単位でカウントダウン表示されます。設定されたときの表示は1/2段ステップですが、設定は無段階で行われるため、実際の設定とは異なることがあります。例えば、シャッターレリーズボタンを切る前に「16」（実際の設定にもっとも近い1/2段ステップの数値）と表示されても、実際の設定はそれよりも遅く、シャッターを切った後のカウントダウン表示が「19」から始まることもあります。

被写体が明るすぎたり暗すぎたりすると、自動設定に必要なあらゆる条件に基づいたうえで、本製品で設定できる範囲外のシャッタースピード（ $1/4000$ 秒より速い、または60秒より遅い）が算出されることもあります。その場合は、シャッタースピードは $1/4000$ 秒または60秒に設定され、ファインダーのシャッタースピード表示が点滅して警告します。

メモ

- ISO感度を高めに設定した場合は、特に暗く平らな被写体でノイズが目立つことがあります（23 ページ）。本製品で遅いシャッタースピードで高感度撮影した際は、ノイズを軽減するために撮影直後自動的に“ブラックピクチャー”（シャッターを閉じて撮影するノイズ画像）を再撮影します。このブラックピクチャーを元の画像に重ね、デジタル処理によって減算を行い、元の画像に生じたノイズを除去します。このように“露光”を2度行うため、遅いシャッタースピードほど撮影に時間がかかります。ノイズリダクション処理中は、本製品の電源を切らないでください。
- 被写体をあえて暗く、または明るく撮影したい場合は、手動での露出調整をおすすめします。（30ページ）

AEロック

構図上の理由から主要被写体を中央に置きたくない場合がよくあります。また、そのような場合に、主要被写体の明るさと全体の平均的な明るさの差がきわめて大きいこともあります。本製品の中央重点測光は平均的なグレーを基準にして画面の中央部を測光するため、そのようなケースには適していません。

AEロックを使えば、そのような構図や被写体にも簡単に対応できます。

AEロックを使って撮影する

1. 主要被写体や平均的な明るさの部分にファインダーの中心を合わせます。
2. シャッターレリーズボタンを半押ししたままにして、露出を測定・固定します。半押ししている間は露出が固定されたままになり、ファインダーでは上の赤いドットのLEDが点灯します。被写体の明るさが変わってもシャッタースピードは固定されたままになります。
3. シャッターレリーズボタンを半押ししたまま構図を決めます。
4. シャッターレリーズボタンを全押しします。最初に設定されたシャッタースピードで撮影できます。

AEロックで露出を固定した後に絞り値を変えてもシャッタースピードは再設定されないため、適正露出は得られません。シャッターレリーズボタンから指を離してAEロックを解除してから、絞り値を設定し直してください。

露出補正

露出計は平均的なグレー（光の反射率が18%）を基準に露出を決定しています。平均的なグレーとは、標準的な被写体の明るさ、すなわち平均的な光の反射率をもつ被写体の明るさです。

反射率が平均的ではない被写体を撮影するとき、露出が適正になるように補正することができます。例えば、なんらかの理由で露出を意図的に明るめや暗めにして何枚も撮影するとき、1枚撮影するごとにAEロックを使うよりも、露出を補正して撮影するほうが便利なことがあります。露出補正は、AEロックとは異なり、手動で解除するまで有効です。露出補正值は、±3EVの範囲で $\frac{1}{3}$ EVステップで設定できます（EVは「Exposure Value」の略で、露出量の値です）。

1. カメラの電源をオンにします。
2. ファンクションボタンを押したままサムホイールを回します。
 - 変化に応じて、ビューファインダーに露出補正值がデジタル表示されます。シャッターレリーズボタンを軽く押した際にも表示されます。

マニュアル露出モード

シャッタースピードと絞り値を手動で設定して撮影します。シャッタースピードダイヤルを目盛りのいずれか、またはいずれか2つの中間に設定してから、次の手順で露出を調整します。

1. 露出計をオンにします。
2. シャッタースピードダイヤル/絞りリングを、点灯している三角形のLEDの方向に、中央の円のLEDだけが点灯するまで回します。2つの三角形と1つの円のLEDは、適正露出を得るためにシャッタースピードダイヤル/絞りリングを回す方向を示します。

また、露出アンダー、露出オーバー、適正露出のいずれかであることを、次のように点灯して示します。

- ▶ 1段以上露出アンダー：シャッタースピードダイヤル/絞りリングを右に回してください。
- ▶● 1/2段露出アンダー：シャッタースピードダイヤル/絞りリングを右に回してください。
- 適正露出
- ◀ 1/2段露出オーバー：シャッタースピードダイヤル/絞りリングを左に回してください。
- ◀ 1段以上露出オーバー：シャッタースピードダイヤル/絞りリングを左に回してください。

メモ

シャッタースピードが2秒より遅く設定されたときは、シャッターを切った後に残り時間が1秒単位でカウントダウン表示されます。

B設定

シャッタースピードダイヤルをBにすると、シャッターリリースボタンを押し続けている間はシャッターが開いた状態になり、バルブ撮影を行うことができます。露光時間は最大60秒です（ISO感度設定により異なります）。

バルブ撮影時、露出計は機能しません。またビューファインダーには露光経過時間が1秒単位で表示されます。

メモ

- 露光時間が長くなると、ノイズが目立つことがあります。
- 本製品では、1/30秒より遅いシャッタースピードで撮影したときは、ノイズを軽減するために、撮影直後に自動的に“ブラックピクチャー”（シャッターを閉じて撮影するノイズ画像）を再撮影します。このブラックピクチャーを元の画像に重ね、デジタル処理によって減算を行い、元の画像に生じたノイズを除去します。
- このように“露光”を2度行うため、遅いシャッタースピードほど撮影に時間がかかります。ノイズリダクション処理中は、本製品の電源を切らないでください。

光量が測光範囲外の場合

マニュアル露出モード時に、周囲の光量が極端に少なく露出計の測光範囲を下回る場合は、ファインダーで左の三角形のLED(▶)が点滅して警告します。また、周囲の光量が極端に多く露出計の測光範囲を上回る場合は、右の三角形のLED(◀)が点滅します。絞り優先AEモードでは、ビューファインダーにシャッタースピードが表示されたままになります。絞り優先AEモード時は、どちらの場合もファインダーでシャッタースピードが表示されますが、適正露出に必要なシャッタースピードが60秒より遅い場合や1/4000秒より速い場合は、表示が点滅に変わります。同様にレンズを絞り込んだ場合でも同じ状態になることがあります。測光範囲を下回る場合でも、シャッターリリースボタンから指を離してから約30秒間は露出計が作動し続けます。この間に構図を変えたり絞りを開いたりして光の状況を改善すると露出を調整でき、点滅していたLEDは点灯に変わります。

フラッシュを使って撮影する

フラッシュ撮影では、実際の撮影の前に一瞬だけ光を放つブリ発光を行い、撮影に必要な発光量を測定します。その直後に、実際の撮影と同時にメイン発光を行います。フィルターの使用や絞り値など、撮影に影響を与える諸条件は、すべて自動的に考慮されます。

対応フラッシュユニット

次のフラッシュユニットを本製品に装着した場合は、本書に記載されているフラッシュ機能(TTL調光など)をすべて使用できます。

- ・ライカシステムフラッシュユニット：SF 40, SF 64, SF 26, SF 58
- ・SCA(システムカメラアダプション)-3000の条件を満たすフラッシュユニットとSCA-3502-M5アダプター使用時

また中央接点(X接点)が+極性であれば、中央接点でのみのタイプのフラッシュユニットもマニュアルで使用できます。

フラッシュユニットを取り付ける

カメラのホットシューにフラッシュユニットを取り付ける前に次の操作を行ってください。

- ホットシューと端子を保護しているホットシューカバーを後方に引いて取り外します。
 - カメラとフラッシュユニットの電源を切る
- フラッシュユニットを取り付けるときは、取り付け脚をホットシューの奥まで確実に差し込み、ロックナットをしっかりと締めて、フラッシュユニットが外れてしまうことのない様にしてください。制御接点と信号接点があるフラッシュユニットは、接点とホットシューの位置がずれてしまうと、データや設定が正しく送受信されず、フラッシュ機能が正常に使えなくなることがありますので、取り付けには特に注意してください。

メモ

アクセサリを使用しない場合は常に、ホットシューカバーを装着しておいてください。

フラッシュモード

本製品のフラッシュ機能に対応しているフラッシュユニットを使用すれば、カメラによってフラッシュ撮影時の発光量が自動制御されます。この自動制御機能は、絞り優先AEモードでもマニュアル露出モードでも使用できます。

また、日中シンクロ時の発光量も、どちらの露出モードでも自動制御されます。フラッシュ光と定常光のバランスをとるために、定常光の明るさに応じて発光量を最大で $1\frac{2}{3}$ EVまで自動的に減らします。ハイスピードシンクロ機能に対応していないフラッシュユニット使用時に絞り優先AEモードでフラッシュ撮影するときに、フラッシュ同調速度の $\frac{1}{180}$ 秒でも露出オーバーになってしまうほど定常光が明るい場合は、フラッシュは発光されません。(35ページからのハイスピードシンクロ撮影参照) その場合は、シャッタースピードが定常光に応じて自動設定され、ファインダーに表示されます。

フラッシュユニットには、カメラで設定したISO感度も送信されます。ISO感度とともにレンズで手動設定した絞り値が送信されると、フラッシュユニットがそれらの値に応じて発光量を自動制御します。本製品のフラッシュ機能に対応しているフラッシュユニット使用時は、フラッシュユニット側でISO感度を変更することはできません。

メモ

- スタジオ用ストロボは発光時間が長いことがあります。そのため、シャッタースピードをフラッシュ同調速度の $\frac{1}{180}$ 秒より遅く設定することをおすすめします。
- 無線通信によるラジオスレーブを使用してワイヤレスフラッシュ撮影する場合は、発光が遅れることがあるため、シャッタースピードをフラッシュ同調速度の $\frac{1}{180}$ 秒より遅く設定することをおすすめします。
- 本ページ以降で説明するフラッシュの特殊機能は、本製品のフラッシュ機能に対応しているフラッシュユニット以外では設定や使用はできません。
- フラッシュユニット (特に本製品のフラッシュ機能には対応していないフラッシュユニット) の使用方法やフラッシュ機能については、各フラッシュユニットの取扱説明書をご覧ください。

カメラによる発光量の自動制御

カメラ側で発光量を自動制御してフラッシュ撮影するときには、フラッシュユニットを装着して電源を入れ、TTL 調光モードを選んでから、本製品で次の操作を行います。

1. シャッターレリーズボタンを半押しして露出計をオンにし、シャッタースピードまたは露出状況をファインダーに表示します。シャッターレリーズボタンを一気に全押ししてしまうと発光されません。
2. シャッタースピードダイヤルを **A**(絞り優先AEモード) またはフラッシュ同調速度 $1/180$ 秒以下のシャッタースピード **B** (を含む) に設定します。絞り優先AEモードでは、カメラは定常光に応じてシャッタースピードを決定しますが、手ブレを軽減するために1/焦点距離の公式に応じてシャッタースピードを制限します。
3. 希望の絞り値または被写体までの距離に応じた絞り値を設定します。

メモ







ハイスピードシンクロ機能に対応していないフラッシュユニット使用時に、自動設定されたシャッタースピードまたは手動設定したシャッタースピードが $1/180$ 秒より速い場合は、フラッシュは発光されません(35ページ)。

システム対応フラッシュユニット使用時のビューファインダー内露出制御表示




本製品のフラッシュ機能に対応しているフラッシュユニット使用時は、ファインダーのフラッシュマークのLEDの表示でフラッシュの状態を確認できます。また、定常光に基づく露出状況もその他のLEDで同時に確認できます(詳しくは各項目のページをご覧ください)。

オートフラッシュモード(GNCモード)時の表示

(ガイドナンバーまたはTTL設定のフラッシュユニット)

- ・ フラッシュユニットの電源が入って充電は完了しているが、が表示されない。ハイスピードシンクロ機能に対応していないフラッシュユニット使用時で、カメラが $1/180$ 秒より速いシャッタースピードに手動で設定されています。この場合、フラッシュユニットの電源が入っていても充電が完了していてもフラッシュは発光しません。
- ・ 撮影前に  がゆっくり(1秒に2回)点滅充電が完了していません。
- ・ 撮影前に  が点灯充電が完了しました。発光できます。
- ・ 撮影後に  は点灯したままで、その他の表示は消灯フラッシュ撮影が成功しました。充電が完了しており、引き続き発光できます。
- ・ 撮影後に  が速く(1秒に4回)点滅し、その他の表示は消灯フラッシュ撮影が成功しました。バッテリー残量が不足しているため次の発光はできません。
- ・ 撮影後に  とその他の表示が消灯絞り値が小さすぎたなどの理由で、露出不足でした。

カメラによる自動制御モード(A)/マニュアルモード(M)時の表示

- フラッシュユニットの電源が入って充電が完了しているが、が表示されない。カメラが $1/180$ より速いシャッタースピードに手動で設定されています。この場合、フラッシュユニットの電源が入っていて充電が完了していてもフラッシュは発光しません。
- 撮影前にがゆっくり(1秒に2回)点滅
充電が完了していません。
- 撮影前にが点灯
充電が完了しました。発光できます。

ハイスピードシンクロ (FP発光)

ライカシステムフラッシュユニット装着時はシャッタースピードを本製品の最高速度まで設定できるハイスピードシンクロ機能を使ってフラッシュ撮影できます。ハイスピードシンクロ機能は、絞り優先AEモードでもマニュアル露出モードでも使用できます。シャッタースピードがフラッシュ同調速度 ($1/180$ 秒)より速く自動設定または手動設定されると、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わります。手動で設定する必要はありません。

重要

ハイスピードシンクロ撮影時は、TTLフラッシュ撮影時よりもフラッシュ光の到達距離が大幅に短くなります。

メモ



- マニュアル露出モードでは、シャッタースピードをフラッシュ同調速度 ($1/180$ 秒)より遅く手動ですることが可能です。
- シャッタースピードがフラッシュ同調速度 ($1/180$ 秒)より速く自動設定または手動設定されると、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わります。


その他の機能・設定

セルフタイマーを使って撮影する

セルフタイマーを12秒に設定して撮影できます。セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。

セルフタイマーを使って撮影する

1. メインスイッチを「」にします。
2. シャッターレリーズボタンを全押ししてセルフタイマーを作動させます。
 - セルフタイマーが作動すると、正面のセルフタイマーLEDが最初の10秒間は点滅し、その後点灯に変わり、撮影されます。

セルフタイマー作動中にはメインスイッチをから回すと、セルフタイマーを中止、またはシャッターレリーズボタンを押すと再度セルフタイマーを作動させることができます。

重要

セルフタイマー撮影時の露出は、シャッターレリーズボタンを全押ししたときではなく、撮影直前に設定されます。

画像をパソコンで見る

撮影した写真をお使いのパソコンで再生します。この作業にはパソコンに装備または外付けのカードリーダーが必要となります。

データをパソコンに取り込む

メモリーカード上の画像データはカードリーダーを介してパソコンに転送されます。パソコンに装備されたリーダーとUSBケーブルで接続されたリーダー、どちらも使用できます。

メモリーカード内のフォルダ構造

フォルダー名は「100LEICA」、「101LEICA」などと表されます。1つのフォルダには最大9999枚の画像が保存されます。

DNG (RAW) データ

本製品では、RAWファイル形式のひとつであるDNG (デジタル・ネガティブ) 形式で画像を記録できます。DNG形式で記録した画像は、汎用画像に変換するためにRAW 現像ソフトウェアが必要になります。例えば、DNG形式で記録した画像を現像・処理できるプロ仕様のソフトウェア

「Adobe®Photoshop®Lightroom®」を使うと、デジタル画像のカラー処理に最適なアルゴリズムにより、ノイズを最低限に抑えた高精細画像に仕上げることができます。

また、ホワイトバランスやシャープネスの調整、ノイズ除去、階調補正などの画像処理を行い、最高水準の画質にすることができます。

ファームウェアをアップデートする

ライカは、製品の機能の向上や不具合の改善に継続的に取り組んでいます。デジタルカメラでは多くの機能がファームウェアで制御されており、お買い上げ後にも機能を追加したり不具合を改善したりすることができます。機能を追加したり不具合を改善したりするには、カメラのファームウェアのアップデートが必要です。

このために、ライカでは随時、ファームウェアのアップデートを提供しています。また、アップデートに伴う改善内容や追加機能についての情報も弊社ウェブサイトを提供しています。
www.leica-camera.co.jp

1. カメラの電源を切ります。
2. メモリーカードを、内蔵またはパソコンに接続されたカードリーダーにセットします。
3. メモリーカードをフォーマットします。
4. ライカ ホームページ上の「FIRMWARE」からアップデートファイルをパソコンにダウンロードします。
5. メモリーカードのフォルダ構造の一番上のフォルダにファームウェアデータ xxx.FWを保存します。
6. データ*.FW ggf.を解凍します。
7. メモリーカードをカードリーダーから取り出します。
8. カメラの電源が切れていることを確認してからメモリーカードをカメラに入れ、底蓋を閉じます。
9. ファンクションボタンを押したままカメラの電源をオンにします。

アップデートが始まります。アップデートには約15分かかります。

表示

	ビューファインダー LED (常時点灯)	背面LED
処理中	UP	点灯
アップデート終了	UP	消灯
バッテリー残量が アップデート過程の 必要量を満たしてい ない	bc	ゆっくり点滅
アップデート不可	Err	速く点滅

*例:メモリーカード上にアップデートファイルが存在しない場合等

システムアクセサリ

交換用レンズ

ライカMシステムは、シャッターチャンス逃さない素早い撮影や、被写体にカメラを過度に意識させない撮影に理想的なシステムです。交換式のレンズには、焦点距離が16～135mm、開放F値が最大でF0.95と、幅広いラインアップがそろっています。

フィルター

現行のMレンズには様々なタイプとサイズのフィルターが使用できます。

メモ

ライカ M8およびライカM8.2専用のUV/IRフィルターは、特に広角レンズ使用時に画像周辺部に色かぶりが発生するため、本製品での使用はおすすめできません。

ビューファインダー M

広角レンズ用の外付けファインダーで、18mmレンズ用、21mmレンズ用、24mmレンズ用の3種類をラインアップしています。コンパクトなデザインと鮮やかなファインダー像が特長です。ライカMのファインダーと同様にブライトフレームも表示されるので、正確にフレーミングできます。

(製品コード 18mm用:ブラック 12 022、シルバー 12 023/
21mm用:ブラック 12 024、シルバー 12 025/
24mm用:ブラック 12 026、シルバー 12 027)

ユニバーサル広角ビューファインダー M

ライカユニバーサル広角ビューファインダーMは非常に実用的なアクセサリです。焦点距離が16mm、18mm、21mm、24mm、28mmの超広角レンズを装着したときに、ライカ Mのファインダーと同様に各レンズ用のブライトフレームを表示する、便利な外付けファインダーです。デジタルとフィルムのライカMモデル全機種で使用できます。パララックス補正機能と、カメラを水平に保つための水準器を装備しています。(製品コード 12 011)

ビューファインダー・マグニファイアー M 1.25倍/1.4倍

ファインダーに映る被写体を1.25倍または1.4倍に拡大するアクセサリです。焦点距離が35mm以上のレンズを使うときに効果的で、構図を簡単に決めることができます。Mカメラ全機種で使用できます。本製品に装着したときは、ファインダー倍率が0.68倍×1.25=0.85倍、または0.68倍×1.4=0.95倍になります。

紛失防止のためにフック付きの真鍮チェーンが付いており、キャリングストラップ取り付け部につないでおくことができます。また、ループ付きのレザーケースも付属しています。ケースに収納してループにキャリングストラップを通しておけば、キズや汚れから保護できるだけでなく、必要なときに素早く取り出せます。

(製品コード 1.25倍:12 004、1.4倍:12 006)

フラッシュユニット

本製品では様々なフラッシュユニットがお使いいただけます。本製品のフラッシュ機能に対応しているフラッシュユニットの場合にのみ、カメラによってフラッシュ撮影時の発光量が自動制御されます。ライカでは異なった対応フラッシュユニットがそろっています。

メモ

アクセサリを使用しない場合、ホットシュー/端子カバーが常に装着されていることを確認してください。

視度補正レンズ

視度を調整してファインダー表示を見やすくするレンズです。+0.5、+1、+1.5、+2、+3、-0.5、-1、-1.5、-2、-3の10種類があります。

ケース

ライカM専用新しい速写ケースMを用意しています。持ち運び時にライカMをしっかりと保護するだけでなく、素早い撮影にも対応します。

撮影時は前面部だけを取り外し、残りの部分でカメラを保護できる構造なので、過酷な撮影環境でも安心です。
(製品コード 14 547)

また、撮影ツール一式を収納して持ち運べる、防水性のクラシックなビリンガム コンビネーションバッグもあります。カメラ2台とレンズ2本、またはカメラ1台とレンズ3本を収納できます。マルチファンクションハンドグリップMを装着したカメラや大型レンズも収納できます。ライカSF26などのアクセサリを収納できるジッパー式のポケットも付いています。
(製品コード ブラック:14 854、カーキ:14 855)

スピア用アクセサリ

製品コード

ボディキャップ	14 397
ホットシューカバーM	14 900
キャリングストラップ	439-612.105-000
充電式リチウムイオンバッテリー (BP-SCL2)	14 499
バッテリーチャージャーBC-SCL2 (電源コード, 車両用充電器付)	14 494

使用上のご注意とお手入れ

一般的なご注意

- ・強い磁気、静電気、電磁波を発生する機器（電磁調理器、電子レンジ、テレビ、パソコンのモニター、ゲーム機、携帯電話、無線機など）の近くで使用しないでください。
- ・テレビの上や近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- ・携帯電話の近くで使用すると、磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- ・スピーカーや大型の電動機などの強い磁気により、保存した画像データが破損することがあります。
- ・無線送信機や高圧線の近くで使用しないでください。磁気により画像データの記録が影響を受けることがあります。
- ・電磁波の影響で正常に動作しなくなった場合は、バッテリーを入れ直してから電源を入れ直してください。
- ・殺虫剤などの強い化学薬品をかけないようにしてください。お手入れの際は、軽油、シンナー、アルコールは使用しないでください。
- ・薬品や溶剤によっては、本体表面が変質したり、表面の仕上げがはげたりすることがあります。
- ・ゴム製品やビニール製品は、強い化学物質を発生することがありますので、長期間接触したままにしないでください。

- ・浜辺などで使用するときは、内部に砂やほこりが入り込まないようにご注意ください。砂やほこりが入り込むと、カメラやメモリーカードの故障の原因となります。レンズ交換やメモリーカードの出し入れの際は特にご注意ください。
- ・雨の中や雪の中や浜辺などで使用するときは、内部に水滴が入り込まないようにご注意ください。水滴が入り込むと、カメラやメモリーカードが正常に動作しなくなるばかりか、修理が不可能になることがあります。
- ・アクセサリ（フラッシュユニットなど）を使用しない場合、ホットシュー/端子カバーが常に装着されていることを確認してください。
- ・海水がかかった場合は、水道水で湿らせてよく絞った柔らかい布で拭き取ってください。その後、乾いた布でよく拭いてください。

撮像素子（センサー）

- ・宇宙線の影響により（飛行機内に持ち込んだ場合など）、画素欠けが生じることがあります。

結露

- ・カメラの内部または外部に結露が生じた場合は、電源を切って常温の場所に約1時間置いてください。常温になじんでくると水滴は自然に消えます。

お手入れ方法

汚れはカビや細菌などの繁殖の原因となりますので、各機器を清潔に保ってください。

カメラ

- カメラ本体をお手入れする際は乾いた柔らかい布をお使いください。ひどい汚れは、よく薄めたクリーナーなどを直接付けてから、乾いた布で拭き取ってください。
- 本製品やレンズに付着した指紋などの汚れは、柔らかい清潔な布で拭き取ってください。布では拭き取りにくい隅の汚れには、小さなブラシをお使いください。シャッターブレードには決して触れないようにしてください。
- 機械的に動作するベアリングやスライド部には潤滑油を使用しています。長期間使用しない場合は動作が鈍くなるのを防ぐために、約3ヶ月ごとに数回シャッターを切って動かしてください。また、その他の操作部もすべて定期的に動かすことをおすすめします。レンズのフォーカスリングと絞リングも定期的に動かしてください。
- レンズマウントの6ビットコード検知センサー（17ページ）を傷つけたり汚したりしないでください。また、砂などがマウント部に入り込まないようにご注意ください。マウント部を傷つける恐れがあります。お手入れの際は、これらの部分を絶対に濡らさないでください。また、検知センサー表面のガラスカバーを押さないでください。

バッテリー

充電式リチウムイオンバッテリーは、内部の化学反応により電力を発生します。この化学反応は外部の温度と湿度の影響を受けやすいため、極端な温度条件のもとでは寿命が短くなります。

- カメラを長期間使用しない場合は、カメラからバッテリーを取り出してください。カメラは電源を切っただけでも日付などの設定の保存に微量の無負荷電流を使用するため、数週間後には多量の電力を消費してバッテリーが過放電状態になります。
- バッテリーを取り出して保管する場合は、容量がある程度残った状態で保管してください。長期間保管する場合は、過放電状態にさせないために、半年ごとに約15分間充電してください。
- バッテリーの端子部は清潔に保ってください。また、近くに金属類を置かないでください。リチウムイオンバッテリーはショートが起きにくい仕組みとなっていますが、クリップやアクセサリなどの金属類と接触させないでください。ショートしたバッテリーは発熱することがあり、やけどをするおそれがあります。
- バッテリーを落とした場合は、外装や端子部が破損しなかったか直ちに確認してください。破損したバッテリーを使用すると、カメラが故障するおそれがあります。
- バッテリーの使用時や充電中に、異音、変色、変形、発熱、漏液などの異常に気づいたときは、カメラやバッテリーチャージャーから直ちに取出してください。そのまま使用や充電を続けると、破裂や発火の原因となります。
- バッテリーが漏液したり、異臭がしたりするときは、直ちに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火するおそれがあります。
-

- ・バッテリーには安全弁が付いています。誤った使い方により内部にガスが発生して内圧が上昇した場合は、安全弁によってガスが外部に放出されます。
- ・バッテリーには寿命があります。4年を目安に新しいバッテリーをお買い求めいただくことをおすすめします。寒い環境でお使いの場合はより早い時期での交換が必要になることがあります。(バッテリーの製造日は表面に記されています。表記法は以下の通りです。週番号/年(WW/YY))
- ・破損したバッテリーは、正しくリサイクルするために、リサイクル協力店にお持ちください。
- ・バッテリーを直射日光の当たる場所や高温多湿の場所に放置しないでください。また、電子レンジや高压容器に入れないでください。破裂や発火の原因となります。

バッテリーチャージャー

- ・バッテリーチャージャーを無線受信機の近くで使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。無線受信機から1m以上離してお使いください。
- ・充電中に音がすることがありますが、異常ではありません。
- ・バッテリーを充電していない場合でも、コンセントに差し込んだままにしておくと、微量の電力を使います。使用しないときはコンセントから抜いてください。
- ・端子部は清潔に保ってください。また、絶対にショートさせないでください。
- ・付属のカーアダプターをお使いの際は、次の点にご注意ください。
 - 付属のカーアダプターは12V車専用です。
 - コンセントでバッテリーを充電しているときは、絶対にカーアダプターをバッテリーチャージャーに接続しないでください。

メモリーカード

- ・データの読み込み中や書き込み中は、メモリーカードをカメラから取り出したり、電源を切ったり、カメラに振動を与えたりしないでください。
- ・メモリーカードを保管するときは記録データを保護するため、付属の帯電防止ケースに入れて保管してください。
- ・高温の場所、直射日光の当たる場所、磁気や静電気を発生する場所で保管しないでください。
- ・落としたり曲げたりしないでください。破損して記録データが消失する原因となります。
- ・カメラを長期間使用しない場合は、カメラからメモリーカードを取り出してください。
- ・メモリーカードの裏にある端子部に触れないでください。また、汚れやほこりが付着したり、水でぬらしたりしないようにご注意ください。
- ・データ削除を繰り返すと断片化が生じて空き容量が少なくなります。それにより書き込み時間が長くなることで記録エラーが起きる場合がありますので、定期的にフォーマットし直すことをおすすめします。

撮像素子(センサー)のクリーニング

撮像素子のカバーガラスに小さなごみやほこりが付着すると、その大きさにもよりますが、黒い小さな点やマークとなって画像に写り込むことがあります。ライカ カスタマーケア(54ページ)では、撮像素子のクリーニングサービスをご利用いただけます。クリーニングサービスは保証の対象外となり、有料とさせていただきます。

撮像素子をクリーニングする

バッテリー残量が60%以上であることをご確認ください。

1. メインスイッチをST(セルフタイマー)にします。
2. ファンクションボタンを押したままシャッターレリーズボタンを押してください。
シャッターが開いたままの状態になります。(バッテリー残量が少なすぎる場合はシャッターが開かず、ビューファインダーに **bc**(= Battery Capacity)が表示されます。)
3. シャッターが開いたら撮像素子をクリーニングしてください。
クリーニングするときは、次ページ「重要」の項目に記載の内容に十分ご注意ください。
4. クリーニングが終わったらメインスイッチでカメラの電源をオフにしてください。シャッターが10秒後に再度閉じます。

メモ

- カメラの内部にほこりなどが入り込むのを防ぐために、カメラには常にレンズまたはボディキャップを取り付けておいてください。
- 同じ理由から、レンズ交換はできるだけほこりの少ない場所です素早く行ってください。

- プラスチック製のパーツは静電気を帯電しやすいため、ほこりが付着しやすくなっています。ボディキャップを長時間衣類のポケットに入れたままにしないでください。
- 汚れがひどくならない様、点検・クリーニングは出来るだけほこりの少ない場所で行ってください。
- 通常のごみやほこりは、清潔な(必要に応じてイオン化した)空気や窒素を吹き付けて吹き飛ばしてください。先端がブラシ状になっていないブLOWER(ゴム製など)のご使用をおすすめします。特別な低圧のクリーニング用エアースプレーを使うときは、各スプレーの使用上の注意に従ってください。
- これらの方法で吹き飛ばせないゴミやほこりが付着している場合は、ライカ カスタマーケアまでご相談ください。
- シャッターが閉じたときに物が挟まるとシャッターが破損することがありますので、電源を切るときは十分ご注意ください。

重要

- ご自身によるクリーニングで生じた破損については一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 撮像素子のカバーガラスに付着したゴミやほこりは、口で吹き飛ばさないでください。わずかな唾液でも撮像素子のカバーガラスに付着してしまうと、取り除くのが非常に困難です。
- 高圧の圧縮空気式クリーナーは使用しないでください。撮像素子のカバーガラスが傷つくおそれがあります。
- クリーニングの際は、硬い物で撮像素子のカバーガラスに触れないようにご注意ください。

保管

- 本製品を長期間使用しない場合は、次のことをおすすめします。
 - a. メモリーカードを取り出す (15ページ)
 - b. バッテリーを取り出す (14ページ) : 約2ヶ月後には日付と時刻の設定が失われます。
- カメラの正面に強い太陽光が当たると、レンズがブルーベと同じ作用をします。太陽光とレンズの作用によりカメラの内部が破損しますので、レンズを保護せずにカメラを強い太陽光に向けたまま放置しないでください。レンズキャップを取り付けて、日陰に置いたりケースに収納するなどして、強い太陽光が当たらないようにしてください。
- 破損やほこりから保護するために、パッド入りのケースに保管することをおすすめします。

- 適度に風通しのよい乾いた場所で保管してください。高温・多湿の場所での保管は避けてください。
- 湿気の多い場所で使用した場合は、湿気をよく取り除いてから保管してください。
- 収納しているケースが湿った場合は、湿気や湿気によって染み出てくるなめし剤によってカメラが故障するのを防ぐために、カメラをケースから取り出してください。高温・多湿の熱帯地域で使用するときは、カビが発生するのを防ぐために、できるだけ多く日光や風に当ててください。密封ケースなどに保管するときは、シリカゲルなどの乾燥剤を入れてください。
- カビや細菌が発生するのを防ぐために、レザー製のケースに長期間収納したままにしないでください。
- カメラとレンズのシリアルナンバー (ホットシュー上面に記載) は、紛失・盗難の際に重要となりますので、書き留めて大切に保管してください。

トラブルシューティング

電源が入らない

- バッテリーを正しく入れましたか？
- バッテリーを十分に充電しましたか？
十分に充電したバッテリーを入れてください。
- 底蓋を正しく取り付けましたか？

電源を入れてもすぐに切れてしまう

- バッテリーを十分に充電しましたか？
バッテリーを充電するか、十分に充電したバッテリーを入れてください。
- 結露が生じていませんか？
寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと、結露が生じることがあります。水滴が消えるまでカメラをそのままにしてください。

シャッターが切れない

- 画像データをメモリーカードに転送中で、バッファメモリーがいっぱいです。
- メモリーカードの空き容量がなく、バッファメモリーがいっぱいです。
- メモリーカードが入っておらず、バッファメモリーがいっぱいです。
- 使用中のメモリーカードの書き込み防止機能がオンになっています。
- メモリーカードに記録された画像番号が最大に達しています。(データのバックアップをとった後パソコンにてフォーマットしてください)
- バッテリーが使用できなくなっています。(残量がなくなる、動作温度範囲外にある、寿命に達するなど)
- 底蓋がしっかりと閉まっていません。

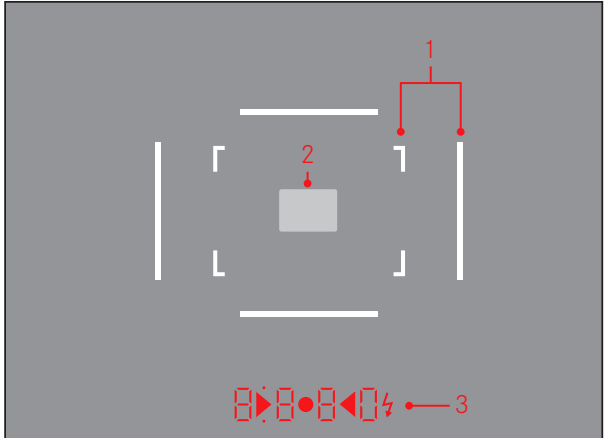
画像を記録できない

- メモリーカードを入れましたか？
- メモリーカードの空き容量がありません。

日付・時刻が正しく表示されない、または全く表示されない

- カメラを長期間使用していなかったり、特にバッテリーを取り出したままだった場合は、正しく表示されなかったり、設定が失われたりします。
十分に充電したバッテリーを入れてください。
日付と時刻を設定し直してください。

ビューファインダー内の表示



1. ブライトフレーム (50mmと75mm用)¹ (例)
 2. フォーカシング測距枠
 3. LED¹ (発光ダイオード)表示:
 - 上下にドット (小さい点) がある4桁のデジタル表示
 - 8 8 8 0** デジタル表示
 - 絞り優先AEモード時 (A)、またはシャッタースピードが1秒より遅い場合に、カウントダウンします。
 - 自動設定されたシャッタースピードを表示します。(シャッターレリーズボタンを半押しにした場合)
 - 絞り優先AEモード時 (A) に、自動設定されたシャッタースピードがカメラで設定できる範囲外の場合に、警告として点滅します。
 - 時刻/日付を表示 (設定時のみ)
 - バッファメモリーが (一時的に) いっぱいの場合に表示します。
 - メモリーカードが入っていない、損傷している、書き込み防止になっている場合に表示されます。また、底蓋がきちんとしまっていない場合や画像数がオーバーしている場合にも表示されます。(Sd)
 - メモリーカードがいっぱいの場合に表示します (Full)。
 - バッテリー残量が少ない場合に表示します (bc)
 - ファームウェアの更新プロセスが進行中または完了している時に表示されます (UP)
 - ファームウェアの更新ができない場合に表示されます (Err)
- 上のドット
 - AEロック使用時に点灯します
 - 日付を表示中に点灯します (設定時のみ)
 - バッテリー容量を表示中に点灯します。(カメラの電源を入れたとき)
 - 下のドット
 - 露出補正時に点滅します。
 - 時間を表示中に点灯します (設定時のみ)
 - ▶ ● ◀ 2つの三角形と1つの円のLED
 - マニュアル露出モードの場合、露出状況を示します。2つの三角形のLEDは、適正露出を得るためにシャッタースピードダイヤル/絞リングを回す方向を示します。
 - 露出計の測光範囲を下回る場合に、警告として点滅します。
 - ⚡ フラッシュマーク
 - フラッシュが発光できるときに点灯します。
 - フラッシュ撮影の前後にフラッシュの状態を示します。

¹周囲の光量に応じて明るさが自動調整されます。ファインダーアタッチメント付のライカMレンズでは輝度センサーを覆ってしまい必要な情報が得られないため、この自動調整を行うことはできません。このような場合にはフレームおよびディスプレイは常に一定の明るさで点灯します。

索引

DNG.....	23/36	シャッタースピードダイヤル	21
ISO感度	23/50	シャッターレリーズボタン	20/52
RAWデータ	23/36	修理（ライカ カスタマーケア）	54
アクセサリ	38	使用上のご注意	40
お手入れ	41	スペア用アクセサリ	39
各部の名称	8	データをパソコンに取り込む	36
カスタマーケア	54	テクニカルデータ	50
画像をパソコンで見る	36	トラブルシューティング	45
キャリングストラップ	10	バッテリー（入れる/取り出す）	14
ケース	39	日付と時刻	22
交換レンズ	17/38	ビューファインダー	24
ご注意	6	ビューファインダーの表示	46
視度補正レンズ	39	ピントを合わせる	26
絞り優先AEモード	29	測距枠.....	26/46
		二重像合致式.....	26
		スプリットイメージ式.....	27

ファームウェアをアップデートする.....	37	露出 / 露出制御 / 露出計	
フィルター.....	38	露出計をオフにする.....	20/28
付属品.....	53	露出補正.....	30
ブライトフレームファインダー.....	24	露出計をオンにする.....	20/28
フラッシュモード.....	32	ISO感度.....	23
フラッシュユニット.....	32	マニュアル露出モード.....	30
フレームセクター.....	25	測光範囲.....	31/50
保管.....	44	光量が測光範囲外の場合.....	31
本体電源のオン/オフ.....	20	AEロック.....	30
メインスイッチ.....	20	絞り優先AEモード.....	29
メモリーカード（入れる/取り出す）.....	15	表示.....	46
メモリーカード内のフォルダ構造.....	36	外付けファインダー.....	38
ライカMレンズ.....	17	ブライトフレーム.....	24/25/46
取り付けと取り外し.....	19		
旧型レンズの使用.....	17		
ライカデジタルサポートセンター.....	54		

テクニカルデータ

名称/型式

ライカM-D (Typ 262) デジタルレンジファインダーシステムカメラ

レンズマウント

ライカ M/バヨネットマウント方式。6ビットコード検知センサー付き

使用レンズ

ライカ Mレンズ(焦点距離16~135mm)

撮像素子

CMOSセンサー、サイズ：約35.8×23.9mm（フィルムMカメラと同等）

記録画素数

5976×3992画素（2400万画素）

記録形式

DNG™ (RAW)、圧縮あり（ロスレス圧縮）

ファイルサイズ

記録画素数や被写体により異なる

バッファメモリー

1GB

記録媒体

SDメモリーカード（2GBまで）、SDHCメモリーカード（32GBまで）、SDXCメモリーカード

測光方式

実絞りによるTTL測光。TTLフラッシュ調光（SCA-3000システムまたはSCA-3002システム対応フラッシュユニット使用時）

測光方法

シャッター先幕のホワイトブレードに反射した光を測光素子が測光：中央重点測光

測光範囲

常温常湿でISO200/24° の時、EV0~20（絞り値：F1~F32）。測光範囲を下回る場合は、ファインダーで左の三角形のLEDが点滅

ISO感度

ISO 200~6400。1/3段ステップで手動設定

露出モードの種類

絞り優先AEモード（A）：手動設定した絞り値に応じてシャッタースピードを自動設定。マニュアル露出モード：絞り値とシャッタースピードを手動設定

フラッシュ

フラッシュユニットの接続

制御接点と中央接点を備えたホットシューに接続

発光のタイミング

先幕シンクロ

フラッシュ同調速度

☞ = $1/180$ 秒。これより遅いシャッタースピードでのフラッシュ撮影も可能。ハイスピードシンクロ機能に対応したフラッシュユニット使用時にこれより速いシャッタースピードに設定された場合は、自動的にハイスピードシンクロ撮影に切り換わる

フラッシュ調光方式

撮影直前にプリ発光を行うM-TTL調光（システム対応フラッシュユニット使用時）

フラッシュ調光補正

±3EV（ $1/3$ EVステップ）：設定可能（設定機能のあるシステム対応フラッシュユニット使用時のみ）

フラッシュモード時の表示

フラッシュユニットの充電が完了：フラッシュマークのLEDが点灯適正露出で撮影が完了：フラッシュマークのLEDが引き続き点灯または速く点滅

ビューファインダー

形式

大型ブライツフレームファインダー。パララックス自動補正機能付き

アイピース

視度：-0.5dpt. 視度補正レンズ（-3～+3dpt.）を装着可能

フレーミング

2フレーム1組：（35mm用と135mm用、28mm用と90mm用、50mm用と75mm用）で表示されるブライツフレームを使用。ブライツフレームは使用レンズの焦点距離に合わせて自動表示。ブライツフレームの色：白

パララックス補正

ファインダーの視野とレンズにおける上下および左右の差異をピント調整に応じて自動補正、ブライツフレームの表示範囲と撮影範囲が自動的に一致

ブライツフレームと撮影範囲

撮影距離が2mのときに撮像素子（約35.8×23.9mm）で撮影される範囲を表示。無限遠のときは、使用レンズの焦点距離に応じて、ブライツフレームの表示よりも約7.3%（28mmレンズ）～18%（135mmレンズ）広い範囲を撮影。撮影距離が2mを下回るときは、ブライツフレームの表示よりもわずかに狭い範囲を撮影

ファインダー倍率（全レンズ共通）

0.68倍

ピント合わせ

フォーカシング測距枠（ファインダー中央部に明るい領域として表示）を使用。スプリットイメージ式または二重像合致式

有効基線長

47.1mm（基線長69.25mm×ファインダー倍率0.68倍）

表示

上下にドットがある4桁のデジタル表示。表示内容については47ページを参照

シャッター/撮影機能**シャッター**

縦走りメタルブレード・フォーカルブレンシャッター

シャッタースピード

絞り優先AEモード(A)時：60～ $\frac{1}{4000}$ 秒（無段階）マニュアル露出モード時：8～ $\frac{1}{4000}$ 秒（1/2段ステップ）

B:バルブ撮影（最大60秒） ← ($\frac{1}{180}$ 秒): $\frac{1}{180}$ 秒より速いシャッタースピードでのフラッシュ撮影も可能（ハイスピードシンクロ機能を備えた対応フラッシュユニット使用時）

シャッターチャージ

電動式。動作音を低減する静音設計

シャッターレリーズボタン

2段階の作動ポイント（1枚撮影時）：半押しで露出計の作動およびAEロック（絞り優先AEモード時）。全押しでレリーズ。

本体電源のオン/オフ

本体上面のメインスイッチを使用。シャッターレリーズボタンを半押しすると「オートパワーオフ」状態を解除

電源

充電式リチウムイオンバッテリー（定格電圧7.4V、容量1800mAh）×1。ビューファインダー内の表示でバッテリー残量の確認が可能。動作温度：0℃～+40℃

型番：BP-SCL2

バッテリーチャージャー

入力:交流 100-240V, 50/60Hz, 300mA、自動切替、または直流 12V, 1,3A；出力：直流 最大 8,25V, 1100mA;動作条件（バッテリー）：10℃-30℃；型番：BC-SCL2

本体**材質**

本体マグネシウム/アルミニウムのフルメタル製、合成皮革の外装。上蓋および底蓋：真鍮製、ブラックペイント仕上げ

三脚穴

A¼ (¼インチ) DINに準拠。ステンレス製。底蓋に配置

動作温度

0°C~+40°C

インターフェース

ホットシュー (ISO準拠)

寸法 (幅×高さ×奥行)

約138.6mm×80mm×42mm

質量

約720g (バッテリー含む)

付属品

充電式リチウムイオンバッテリー、バッテリーチャージャー (カーアダプターおよびヨーロッパ仕様とアメリカ仕様の各電源コード付き、一部地域により異なる)、キャリングストラップ、ボディキャップ、ホットシュー/端子カバー

ライカのホームページ

ライカのホームページでは、各種製品、イベント、ライカについての最新情報をご覧いただけます。

<http://www.leica-camera.co.jp>

ライカデジタルサポートセンター

<使用方法等技術的なお問い合わせ窓口>

Tel: 0120-03-5508

受付時間:月曜日-金曜日 9:30-18:00

祝祭日は受け付けておりません。

ライカ カスタマーケア

お手持ちの製品のメンテナンスや修理が必要な場合は、下記のカスタマーケア、またはお近くのライカ正規販売店までご相談ください。

ライカカメラジャパン株式会社

カスタマーケア

東京都中央区銀座6-4-1

ライカ銀座店内

Tel:03-6215-07072

Fax:03-6215-7073

E-mail: info@leica-camera.co.jp



DAS WESENTLICHE

ライカカメラジャパン株式会社
東京都千代田区有楽町1-7-1
Tel 03-5221-9501 / Fax 03-5221-9502
info@leica-camera.co.jp
www.leica-camera.co.jp